

梅雨なのか、夏なのか 週ごとに変わる天気。既に 驚くことなく、日本は 亜熱帯になっている と言うことが当たり前であり、それに気づき、その生活様式 暮らしを考え、発想を切り替えることを痛感する毎日です。例えば、海水浴や登山の時期、直近では 蛍の時期も、確実に早まっています。農作物も然り。そして、子どもたちの環境も。都会や市内の幼児施設小学校も、暑さで園庭校庭で遊ぶこと、野外で過ごす事は制限されたり。これらは、既に 特別なことではなく、亜熱帯の日本にとっては、当然の暮らしになっていかざるを得ない事です。クーラーの設置率を考えても当然のことでしょう。

大地は、土にこだわり、土の道路地面駐車場 コンクリートアスファルトを避け、ひたすら 広葉樹を植え続け、森を大切に作り続けてきていることは、気候変動にあわせ、子どもたちの成長と並行いや先取りしていることなのです。

しかも、大地のホールは、とてつもなく涼しくて快適です。これも、北側にある魔女の森と南に繁る広葉樹のお陰です。まさに、森の精霊が守ってくれるお陰です。大地建設時は、大地園舎が砂漠の真ん中にあっただけで、地面は造成でドロドロの土と樹木が一つもありませんでした。周囲の森から、適当な広葉樹をシャベルで抜いてきて、辺り構わず植えてきたのが、今や 月日とともにジャングルのように日陰を提供してくれるようになりました。もちろん 広葉樹ですから、冬は、暖かい日差しを提供してくれます。(難点は 屋根のトコに詰まる落ち葉だけ)

子どもたちが、日々 木陰で遊ぶ砂場での泥遊び、森で遊ぶ姿、雑木林で頬張る桑グミの光景 木陰での流しそうめん 午後の室内での喜々として遊ぶ姿、隣の部屋ですやすやとお昼寝してる年少児達の寝顔・・・

クーラーもなく、化石燃料も使わずに、自然の森のエネルギーで暮らせる平和な日々。現実の世界では、エネルギー特に原油やガスの奪い合いで戦争紛争が頻発している情勢。亜熱帯で生活していかねばならないこれからの子どもたちの為に、私たちは 何を、どんな知恵を 暮らしのヒントを残しているか かねばならないが、お金や効率性便利性の知恵よりも 大切かつ最優先であると考えています。

## 【朝日の役割】

先日、1年ぶり位に東京へ泊まりで出かけた。宿泊は JR 山手線大塚駅徒歩2分の駅前ホテル。その日は、小さい頃から親子共々お世話になった町田市の叔母のお見舞いをしてから、夕方6時過ぎに大塚へ。

(余談だが、町田駅で衝撃的な出会いが！！ 夕方4時頃、雑踏で混み合っている町田駅構内で、都議会選で演説している候補者がおり、その方の応援演説をしようとマイクを手にした人を妻が見て、どこかで見たような気がするつつぶやいた。2人で見てみると、その人もこちらの視線に気づき、あっと言って近づいてきた。何と、8年前に卒園した子の保護者であった。一緒に蝶が岳や登山をした仲でもある。今、議員浪人中と言うことで、次回の衆議院議員選に臨むということ。このご縁 シンクロにおどろいた！！)

ラッシュでいっぱい電車から降りて大塚へ。平日の木曜日の夜にも関わらず、飲み屋が多い大塚駅前、煌々と明かりが灯り人混みでいっぱい。簡単に夕食を済ませ、ホテルへチェックイン。海外旅行だったら、これから外へ興味本位で繰り出すのが我々の常であるが、既に疲れて、久々の東京の夜を楽しむ事なく眠る。きっと、アルコール好きなら、きっと繰り出すであろう。

さて、翌朝、3時、いつものように目が覚めた。さすがに外を見ると、ビルビルビル・・・夜明けの4時過ぎにも、もちろんモルゲンロートなどないものだから、外へ出るエネルギーもなし。本日の、お話会のお話を繰り返したり、持参した本を読んだりして、朝を待つ。逆に考えれば、前日まで草刈りで身体を酷使した休養が、ここでできるのかと思ったが、やはり、肉体の疲れは眠ればとれるが、精神的な疲れや欲求不満などは、寝ても取れないのが常識。

朝食後、9時に、妻とは、それぞれの所用で、大塚駅で別れ、電車に乗って東京子ども図書館へ向かう。12年前に、毎月、高速バスと持参した自転車を通った道であるだけに、電車で行くのは、一度だけだっただけに、道順も忘れ、交番で聞きながら向かう。(スマホなし) 町並みを見ながら歩き、そして、精神的な喜びであるお話を済ませ、同期の人達とローヤルホストなるレストランでランチと歓談(個人的には、東京子ども図書館横の大きな公園が好みであったが) 夕方6時に東京駅で待ち合わせして、8時前には長野到着。そのまま、大地の田んぼへ向かい、蛍を見て大地へ戻りほっとした。

「東京に住んだら、朝からチェーンソーや草刈りはできない」「朝から静けさの中で小鳥のさえずりを聞きながらお茶を飲めない」「やはり無理」などつつぶやくこと多数。自分のライフスタイルにあった今の暮らしのありがたさを痛感。

夏至 1年中で一番昼が長い時。夜明けが早く、夕暮れが遅い。外の世界を満喫できる時。春分の日～夏至までの期間が一番好きである。夏至を過ぎると、だんだんとその時間が減っていくので、ネガティブな気持ちになってしまう。だから、躍動感溢れる春から夏至までの期間が大好きである。年をとると早く目が覚めるという話であるが、青ちゃんは、30代から早起きで今来ている。大地建築の約2年間、早朝から夜遅くまで毎日嬉しくて建築大工仕事をしたことが、身体にこんなリズムを作ってしまったのであろう。

そして、4人の子どもを育てるにあたり、もちろん 炊事洗濯家事などは夫婦で協力してやる中で、一人の時間、取り組む時間は、子どもたちが眠っている早朝しかなく、この時間を、読書 事務経理 工作 環境整備 草刈りなどなど、マイペースで自分のアイデアや試作をすることなどが、自己保証できる世界であった。

更に、22歳の時のオーストラリア単独砂漠ツーリングで、朝4時の地平線が真っ赤に染まる時間にバイクのエンジンをかけ、その朝焼けの中を3ヶ月間毎日走り始めたあの躍動感溢れる世界も身体に染みついている。

星野道夫のエッセイ【旅をする木】かどうか忘れたが、人間は、音や匂いが大きな記憶になって、人生を変えるきっかけにもなりうるが、実は つまづいたときや悩んだ時に、景色や光景が助けてくれる、力になってくれる とあったような気がする。まさに、自分に当てはまっているようだ。

そして、幸せな事に、今住んでいる大地から、志賀高原からの朝日を、毎日拝む事ができる。毎日と言っても、雨の日は拝めないが、どこから登るかは推察できる。だから、朝起きると、必ず志賀の山並みを見る。カーテンは居宅空間には存在しないので、室内からでも、昼夜 朝日や星や月を見ることが出来る。

朝日を見る事拝む事は、自分の細胞を躍動感溢れるものにしてくれ、みなぎるやる気が起こってくる。そして、夜明け前には、どんどん面白いアイデアが浮かぶ。大地のとんでもないアイデアや急に変わる皆さんにとって迷惑千万などんどん返しアイデア 無茶ぶりは、この瞬間に湧いてくる事が、90%以上である。だから、原因の一端は、夜明けの朝日のせいでもあると言えなくもない。

しかし、この夜明けの朝日は、子どもたちの仲間 分身 味方であると考えている。子どもにとって、今 この瞬間大切なものは、必要な事は、やるべき事は 幸せな事は やらねばならぬ事は、それを、すぐに実行しなければ 後悔する 子どもにすまない！！ そのためには、朝日を背負って、やらねばならない。大地は、青ちゃんは。

